

♪ 2016年度 **poco a poco** ♪

Nr. 9 2016年9月8日(木) 文責: プファイル・辰巳

さわやかな9月!

2学期に入ってから、よいお天気に恵まれさわやかな天候が続いています。日暮れはだんだん早くなってきましたが、それでも、夜8時ごろまで明るいのはありがたいですね。

今週は中学部2年生の修学旅行、来週は、小学部の秋の遠足と、6年生の修学旅行。来週も、よいお天気が続くといいですね。

さて、音楽室では、各学年とも学校祭に向けての歌の練習が始まりつつあります。約1か月後に迫ってきた学校祭。みなさんの歌声が、舞台の上で響く本番を楽しみに、練習に励みたいと思います。

音楽こぼれ話 <あの町、この町、音楽家が住んだ町 ⑥

ライプツィヒ>

ドイツ東部、ザクセン州に位置する商業都市ライプツィヒは、有名なゲヴァントハウスオーケストラや聖トーマス合唱団などをもつ音楽都市でもあります。そしてこの町には、実に多くの作曲家たちが住んでいました。

晩年を聖トーマス教会のカントールとして過ごし、この町に骨を埋めたJ.S.バッハ。ドイツで初の音楽大学をこの地に設立し、忘れ去られようとしていたバッハの音楽を復活させたメンデルスゾーン。この町に生まれ、ピ

アニストとして活躍し、後に作曲家ロベルト・シューマンの妻となったクララ・ヴィーク(シューマン)。シューマン夫妻は、夫妻で一時期、ライプツィヒに住んでいた時代もあります。その他、ワーグナー、グリーグ、マーラー、レーガ

ーなど実に多くの有名な音楽家が、ライプツィヒに住んでいました。

ライプツィヒの観光局では、市内に点在するこれらの音楽家たちゆかりの場所を、「Notenspur」(楽譜の足跡)と題したパンフレットにまとめて発行しています。地図とそれぞれの場所の説明があり、順に回っていけるルートが組まれています。バッハ博物館やメンデルスゾーン・ハウスをはじめ、興味深い場所が、20か所ほど挙げられています。

そのパンフレットにも載っているカフェ・レストラン「バウム」は、そんな音楽家たちが、好んで立ち寄ったコーヒーハウスです。今でも、レストランとカフェのほかに、コーヒー博物館も併設されています。

また、パータースという楽譜出版社の拠点も、ロンドン、ニューヨークと並んでライプツィヒにあります。

先述のメンデルスゾーンによって設立された音楽大学には、日本の有名な音楽家も留学していました。明治時代に派遣留学生として選ばれた「滝廉太郎」です。残念ながら病気のため、短期間の後に帰国を余儀なくされましたが、以来、現在にいたるまで、たくさんの日本の音楽家たちがこの音楽大学に学んだことでしょう。

ちなみに、音楽家ではありませんが、ライプツィヒ大学でも、有名な方々が在籍しました。文豪ゲーテ、哲学者ニーチェ、日本の文豪森鷗外、そして現ドイツ首相メルケル氏などです。

このように、文化、学術、経済・・・さまざまな分野で実に興味深い歴史を持つライプツィヒ。まだ立ち寄られたことのない方は、是非一度、旅行の目的地にしてみてください。オペラやゲヴァントハウス・オーケストラの演奏だけではなく、バッハゆかりの聖トーマス教会やニコライ教会、メンデルスゾーン・ハウスなどでも、定期的にコンサートが開かれているので、すてきな音楽との出会いがたくさん期待される町です。

ほんのちょっとだけ 演奏会情報

ブラウンハイム深夜のコンサート

Auferstehung 教会 (Graebestrasse 8, 60488 Frankfurt)にて

9月16日 (金) 21時から ギター・カルテットの演奏

9月30日 (金) 21時から ギター・ソロの演奏

10月14日 (金) 21時から ギターと声楽の演奏

※いずれも入場料は10ユーロ

コンサート後ワインのサービスもあります

